

て集中豪雨や台風などの激しい天気現象の発生件数が増加する可能性のあることが、ここ数10ないし100年にわたる観測データから示されており、たいへん興味深い。さらに、地球温暖化問題に今後どのように対応していけばよいかについて、この部分の筆者である北野先生が意見を述べておられ、本書のカバーする範囲が自然科学のみならず社会科学にまで広がられている。第6章は「地球環境の未来」であり、本書の編者である半田先生の文章で締めくくられている。

最後に、本書を読み進めていく中で多少気になった点を述べさせていただく。本書は第1刷ということも

あり、ケアレスミスや誤植と思われる個所が所々で目に付いた。また、説明が不十分で原論文を参照しないと理解できないところもいくつか見うけられた。本書の巻頭言には、これからこの方面の研究に参画しようとする若手研究者や学部学生にも役だつようにしたいと書かれている。このような読者が混乱しないように、今後の改訂時にはぜひ加筆修正していただきたい。本書が幅広い読者を得て、地球温暖化問題に取り組む我が国の研究者が今後大いに増えることを切望している。

(東北大学理学部 青木周司)

1997年度日本気象学会春季大会気象研究所見学ツアーのご案内

気象予報士会・気象学会つくば大会'97実行委員会

今年の気象学会春季大会はつくばで行われます。今回、特に「気象予報技術」の分科会が3日目に開催され、日本気象学会会員以外の気象予報士の方にも大会に参加していただき、大学や研究機関の研究者との交流をはかることが企画されています。ところで、つくばには気象研究所をはじめとした研究機関が多数集まっていますので、その見学会を気象予報士会と気象学会つくば大会'97実行委員会との共催で「気象予報技術」の分科会に合わせて実施します。気象予報士の方、また、つくばの気象関係の研究機関・施設に関心のある方の参加をお待ちしています。

記

日時：5月23日(金)午後4時30分～6時30分
大会第3日「気象予報技術」分科会終了後
見学先：気象研究所
内容：風洞実験装置、回転風洞装置の見学
ドップラーレーダーの見学
ウィンドプロファイラーの見学

送迎：貸し切りバスで、大会会場から気象研究所まで送迎。見学終了後は、JR常磐線荒川沖駅まで送迎。

定員：40名

申込：氏名、所属、連絡先住所、電話番号を明記して、ハガキ、ファックス、e-mailにより、申し込んで下さい。定員となり次第締め切らせていただきます。

なお、電話による申し込みはご遠慮下さい。

申込先：〒305 茨城県つくば市長峰1-1
気象研究所予報研究部第二研究室
中村 一
fax：0298-53-8649
tel：0298-53-8638
e-mail：hnakamur@mri-jma.go.jp

その他：見学内容、時刻は予定です。変更があるかも知れないことをご了承下さい。